

第2章 上位計画等におけるさいたま新都心の位置づけ

ビジョンの改定にあたり、国・県における本市の位置づけ、本市における都心の位置づけや、各都心及び周辺地域の状況を整理しました。

1. 国・県におけるさいたま市の位置づけ

国・県の上位計画等における本市の位置づけとして、下記の事項が挙げられます。

■ 国の計画におけるさいたま市の位置づけ

プロジェクト名	東北圏・北陸圏・北海道連結首都圏対流拠点の創出プロジェクト ～東日本の玄関口機能を果たし、スーパー・メガリージョンを支える対流拠点の創出～
目的	東北、上信越・北陸方面からの新幹線が集結する「大宮」は、西日本との玄関口となる「品川」と並び、東日本からの多種多様なヒト、モノが実際に集結して交流する最初の対流拠点であり、企業の取引機会拡大や販路開拓、連携によるイノベーションの創出等の取組支援や、広域周遊観光ルート構築のための玄関口機能を果たすとともに、首都直下地震の発災時には首都圏の機能をバックアップするための最前線となる。 このため、東日本のネットワークの結節点として連携・交流機能の集積・強化を図るとともに、災害時のバックアップ拠点機能の強化を図る。
具体的取組内容	○国際的な結節機能の充実(「大宮」の機能向上等を含む交通機関相互の結節機能を強化し、各種交通モードのシームレスな利用を促進) ○対流拠点機能の集積強化(ヒト・モノ・情報の交流促進、企業活動の活発化、観光コンテンツの充実・連携による広域周遊観光ルートの構築、主要都市間連携の場の構築とMICE等の対流拠点機能を整備) ○災害時のバックアップ拠点機能の強化(首都中枢機能を支える都市機能を充実、さいたま新都心付近を TEC—FORCE(国土交通省緊急災害対策派遣隊)の進出拠点に位置づけ、多様なエネルギーに対応した供給設備の整備促進、DMAT(災害派遣医療チーム)の派遣体制の整備) ○関連インフラの整備等(地域高規格道路や幹線道路等関連する交通インフラ整備等を促進)

資料：首都圏広域地方計画

■ 県の計画におけるさいたま市の位置づけ

第4次埼玉県国土利用計画	県南地域：「ゆとりを実感できる安全で快適な住環境や防災機能の向上を図るとともに、都市としての生活利便性を維持するため、高い拠点性を有する駅を中心として商業、医療、福祉など多様な機能を集積し、集約型都市の形成を図る。」
第5次埼玉県土地利用基本計画	県南地域・都市地域(市街化区域)：「一体の都市として総合的に開発し、整備し、保全する必要がある地域都市地域」
埼玉県5か年計画	県南ゾーン(さいたま地域)：「子供を安心して生み育てる希望を叶える」、「誰もが健康で安心して暮らせる社会をつくる」、「医療の安心を提供する」、「危機や災害に備える」、「多彩な人材が活躍できる社会をつくる」、「埼玉の成長を生み出す産業を振興する」、「埼玉の農林業の成長産業化を支援する」、「埼玉の活力を高める社会基盤をつくる」、「豊かな自然と共生する社会をつくる」、「県民が誇れる埼玉の魅力を高める」、「支え合いで魅力ある地域社会をつくる」
第2期埼玉県まち・ひと・しごと創生総合戦略	「子育て環境の整備」、「高速な高齢化への対応」、「雇用を創出するための産業の育成」、「スポーツを生かした地域振興、地域経済の活性化」
まちづくり埼玉プラン	県南ゾーン：「コンパクトなまちの実現」、「地域の個性ある発展」、「都市と自然・田園との共生」
埼玉版スーパー・シティプロジェクト	都市機能集積エリア(A-1 高度集積拠点)：「県・都市圏全体が自律的に暮らせるよう、地域をけん引する拠点として、県内でも高度な業務集積、交流・文化集積をより高めていく。」

2. さいたま市における都心の位置づけ

ビジョンの策定にあたり、本市の上位計画から、都心の位置づけ及び都心の目指す方向性を整理しました。

本市の「総合振興計画」では、本市が目指す将来都市像と将来都市構造を示しています。「さいたま市都市計画マスタープラン」では、総合振興計画を踏まえ、本市における「目指すまちの姿」「目指すべき将来の都市構造」を示しています。

これらの計画では、本市における都心の位置づけとして、『本市の顔として、高次な都市機能を集積し、広域的な都市活動や市民生活の拠点としての役割』を担うこと等を位置づけています。また、大宮駅周辺・さいたま新都心周辺地区と浦和駅周辺地区の2つの都心を包含する区域を「中心市街地」と位置づけ、新たな産業の振興、多様な人々の交流の活性化を図る拠点としての役割を担うことを位置づけています。

加えて、これらの計画では、本市の2つの都心の目指す方向性を示しています。

■ さいたま市が目指す将来都市像・将来都市構造

将来都市像



将来都市像 1
上質な生活都市

都市部に住みながらも豊かな水と緑を身近に感じることで、快適さとゆとりを同時に楽しみながら、生き生きと健康で安心して暮らせる新しいライフスタイルを生み出すことで、全ての人がしあわせを実感し、自らが暮らすまちに誇りを感じることができる都市



将来都市像 2
東日本の中枢都市

東日本全体の活性化をけん引する中枢都市として、国内外からヒト・モノ・情報を呼び込み、新たな地域産業や市民活動等の多様なイノベーションを生み出すことで、市民や企業から選ばれ、訪れる人を惹きつける魅力にあふれる都市

資料:さいたま市総合振興計画・基本計画

将来都市構造

都市機能の集積や豊かな自然環境との共生などにより、質の高い市民生活を支え、多彩な交流を生み出す、
「水と緑に囲まれたコンパクト＋ネットワーク型の都市構造」

資料:さいたま市総合振興計画・基本計画

市街地が河川と緑地に囲まれた都市構造を維持するとともに、集約・ネットワーク型都市構造の形成

資料:さいたま市都市計画マスタープラン

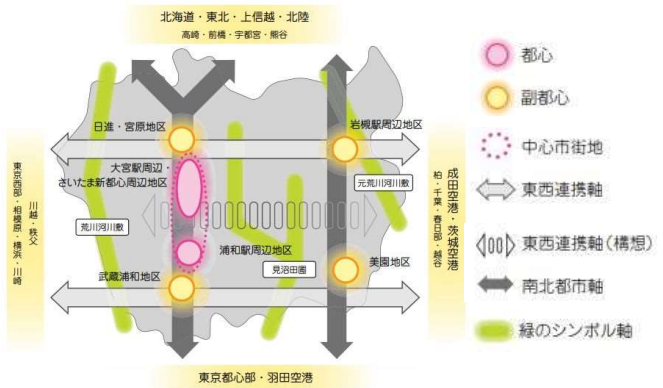
さいたま市総合振興計画・基本計画、都市計画マスタープランにおける都心の位置づけ

さいたま市総合振興計画・基本計画

大宮駅周辺・さいたま新都心周辺地区と浦和駅周辺地区を本市の2つの「都心」と位置づけます。この2つの「都心」は、本市の顔として、良好な住環境に配慮しつつ、幹線道路網や公共交通機関の利便性を生かしながら、商業・業務機能等の高次な都市機能を集積し、広域的な都市活動や市民生活の拠点としての役割を担います。

また、2つの都心を包含する区域を「中心市街地」と位置づけます。「中心市街地」は、都心間の連携の強化、広域的な都市機能と都市型住宅を誘導するとともに、新たな産業の振興、多様な人々の交流の活性化を図る拠点としての役割を担います。

将来都市構造



資料：さいたま市総合振興計画・基本計画

さいたま市都市計画マスタープラン

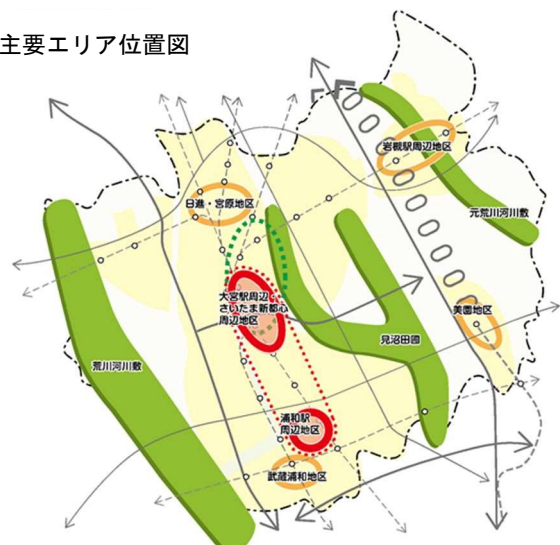
(都心)

- 都心は、**高度で広域的な都市機能が集積し、多様な都市活動や市民生活の拠点**となる地区です。
- 大宮駅周辺・さいたま新都心周辺地区と浦和駅周辺地区を都心として位置づけます。
- 幹線道路網や公共交通機関の利便性を生かし、多様で高次な都市機能の充実・強化を図るため、都市機能の更新と土地の合理的かつ健全な高度利用を推進します。
- 良好な住環境や都市景観を形成するための規制誘導手法を必要に応じて活用します。
- 2つの都心と、それらをつなぐ地区を中心市街地として位置づけます。中心市街地においては、都心を結ぶ交通網の整備や一体的な土地利用の誘導などにより、都心間の連携強化と高次都市機能の集積を誘導するとともに、新しい産業の振興、多様な人々の交流の活性化を図る拠点づくりを進めます。

(多機能都心エリア)

- 多機能都心エリアは、**歴史文化資源やみどりに近接して、多様な高次都市機能が集積し、有機的に連携する地区**とします。
- 新しい産業の創造と多様な人々の交流の活性化を支える地区として形成します。
- 都心相互の連携を強化する交通環境の改善と都心をつなぐ市街地の再構築により、中心市街地の充実を図り、一体的な都心エリアの形成を進めます。
- 氷川の杜や見沼田圃などの地域資源を生かしたみどりのシンボル核を育成します。
- 活力や交流を支える人口を維持・確保するとともに、都心居住環境を向上させます。
- エネルギーマネジメントの推進や低炭素交通への改善を行うことにより、都心からのCO₂排出量の低減を図るとともに、緑化の推進などにより、ヒートアイランド現象の緩和を図ります。
- 公共施設においては、防災性の高い建築物や防災空間・防災設備などの整備を実施し、災害に強い都心を形成します。
- 周辺の歴史文化資源とのつながりに配慮し、都心の風格やにぎわいを感じられる、商業業務地としての魅力的な景観の創出を図ります。
- 道路や公園、公共公益施設などのユニバーサルデザインを進めるとともに、子育て支援施設や高齢者向けの福祉施設の充実を図ります。

主要エリア位置図



資料：さいたま市都市計画マスタープラン

■ さいたま市の都心の目指す方向性（総合振興計画）

大宮駅周辺・さいたま新都心周辺地区	浦和駅周辺地区
<p>大宮駅周辺地区においては、広域的な商業・業務機能や交流機能、さいたま新都心周辺地区では広域行政機能、業務機能、文化機能、交流機能等の機能集積を進め、両地区の連携を深めつつ一体的な都心としての形成を進めます。</p> <p>また、東日本、ひいては国際社会との交流のための結節点となる東日本の対流拠点としての役割を果たし、“ヒト・モノ・情報が集まり、新たな価値を生み出す都心地区”の形成を目指します。</p>	<p>行政機能を担うとともに、商業・業務機能や文化機能を中心とした機能の集積を図り、都心としての形成を進めます。</p> <p>また、駅周辺における商業機能・文化機能等の集積強化・再形成や回遊性の向上などによるにぎわいの創出と、歴史文化資源や「県都」「文教都市」といったイメージを生かした、“洗練された伝統と感性豊かな文化が息づく、風格で魅了する都心地区”の形成を目指します。</p>

資料：さいたま市総合振興計画・基本計画

■ さいたま市の都心のまちづくりの方向性（都市計画マスタープラン）

大宮駅周辺・さいたま新都心周辺地区	
<p>目標像</p> <p>氷川の杜や見沼田圃などからなるみどりのシンボル核の育成とあわせて、商業業務施設、公共公益施設、文化交流施設が集積した一体的な都心の形成を目指します。</p> <p>まちづくりの方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大宮駅周辺地区及びさいたま新都心周辺地区については、土地の高度利用を図り、都市機能の充実・強化を進め、本市の交通、経済の中心地にふさわしい拠点の形成を図ります。 ○大宮駅周辺地区については、商業・交通・市民サービス機能、広域交流機能、アミューズメント機能や都心居住機能を充実させます。また、市街地再開発事業や土地区画整理事業により、道路と歩行者ネットワークを整備するとともに、土地の高度利用を図り、既存の商業業務施設の更新・充実を進めます。 ○さいたま新都心周辺地区については、官公庁や公共公益施設の集積を進めるとともに、にぎわいの強化を図るため、民間活力を活用した都市開発を促進し、商業施設などの充実を進めます。 ○回遊動線を確保し、大宮駅周辺地区とさいたま新都心周辺地区のさらなる一体化を図るとともに、商業、業務、行政、文化、防災など都市機能の連携を図ります。 ○みどりのシンボル核においては、氷川神社や氷川参道、大宮公園などのみどりの拠点をつなぐ道路の緑化推進などを通じて、環境インフラとなる水とみどりのネットワークを形成するとともに、駅周辺にみどり豊かなオープンスペースを確保し、やすらぎとゆとりある都心空間を創出します。 ○歴史・文化的な資産であり、都心部に残された貴重なみどりの空間である氷川参道の歩行者環境を将来にわたり引き継ぐため、交通問題への対応を図りながら歩行者専用道路化を目指します。 	
浦和駅周辺地区	
<p>目標像</p> <p>行政機能、多彩な商業機能や文化・交流機能が集積し、各機能が快適な歩行者空間ネットワークとみどりのネットワークで結ばれた都心の形成を目指します。</p> <p>まちづくりの方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ○県及び市の行政施設の集積や文化交流施設の立地を生かし、商業業務機能、文化・交流機能、都心居住機能を充実させ、各機能のバランスのとれた都心を形成します。 ○都心居住としての住環境の確保を図ります。 ○鉄道高架化により市街地の分断が解消されたことを生かし、東西方向の道路の整備を進めるとともに、駅東西の機能集積を強化し、にぎわいや回遊性を高める市街地の再構築を推進します。 ○中山道沿道などの歴史文化資源を生かしたまちづくりや県庁通りの道路環境整備などを推進し、風格のある景観形成を図ります。 	

資料：さいたま市都市計画マスタープラン

3. 各都心及び周辺地域の状況

本ビジョンの周辺では、大宮駅周辺地域、与野本町駅周辺地区、氷川参道、見沼田圃等でまちづくりなどの活動が進められており、さらにさいたまセントラルパークの整備や国において（仮称）バスタ大宮の整備が検討されています。

また、大宮駅・さいたま新都心周辺地区は、国土交通省のスマートシティプロジェクトの「先行モデルプロジェクト」に選定されており、スマートシティの社会実装に向けた取組を実施しています。

■ さいたま新都心将来ビジョンの対象区域と周辺の状況

